



ご入園おめでとうございます。
ご進級おめでとうございます。

昨春秋、子どもたち皆で植えてくれたチューリップが、日に日に逞しく伸びてきました。

第2の園庭、寺尾中央公園では、桜の花芽が開花に備えてしっかりと太陽の恵みを貯えています。どちらも春を待つお子たちの成長にそっくり重なるように見えて、新年度の期待が膨らみます。

初めて「こども園」という集団生活に入るお子には、不安と緊張が大きい4月です。

一方、ひとつ大きくなって進級した子どもたちにとっても、お部屋や担任の先生が代わり、新しいお友だちを迎えて何と無く落ち着かない。これが毎年4月初めのこども園です。そこで4月は、こどもひとりひとりの不安や緊張を和らげ、先生や友達との関わりに興味を持って園生活が楽しくなるように、ゆったりとした保育をすすめて参ります。

どうぞお家では、「お友だちはできた?」「今日は何をして来たの?」「何が面白かった?」「残さないうで食べてね」などと追求し過ぎないようにして、「待つて見守る」温かい気持ちで接してくださいますように、お願いします。

子どもたちには、頭がいいとか、何かができるとか、大人っぽいなどと言われる前にしっかりと育てておかなければならないことがあるのです。

それは「人間性の基礎」です。思いやり・優しさ・親切・やる気・我慢・根気などの情操と意志が人間性の柱になっています。そして、愛され、褒められることを素直に受けて喜ぶ。このような「心を育てる」ことを、子育ての基本目標にしなければならぬと思っております。

これが開園以来40年続けてきた松の実の保育教育のベースです。

こどもが自ら育つ力をとことん信じて、自らの育ちの芽を摘み取るような教え込みや引き伸ばしを慎み、ひとりひとりの今ある育ちを支え、今の育ちから学んで、先の見通しを立てて援助し続けることが大人の役割です。

松の実の保育目標「丈夫な心と元気な体」に向けて、連携を密に、信頼と協調の輪の中でこどもがこどもらしく明るく元気に育っていきますようにと、願い新たな新年度を迎えています。

こどもひとりひとりにある「人間的成長を遂げるべき生まれながらの権利」を保障し、そのために、こどもにとって一番善いことができる保育教育を、松の実自慢の明るい挨拶と笑顔あふれるチームワークで実践致します。

「こどもが主役・親も主役の後援会」が控えています。

今年度もどうぞよろしくお願ひします。

園長 福田孝子